

事前評価調書（案）

I 事業概要						
事業名	漁港漁場事業					
地区名	師崎漁港					
事業箇所	愛知県知多郡南知多町					
事業のあらまし	<p>師崎漁港は、愛知県本土の南知多町の最南端に位置し、船びき網漁業を中心に県内最大の陸揚げ金額を誇る流通拠点漁港である。</p> <p>当漁港は南海トラフ地震による甚大な被害が予想されていることから、発災後においても水産物流の早期回復を図るため、防波堤と岸壁の耐震対策を実施する。また、既存の岸壁だけでは陸揚げ効率が悪く、陸揚げが集中する時間帯には待機船舶が発生している。さらに、近々完成予定である新設の製氷施設（平成 29 年度末完成）に合わせ、係留施設の再配置等見直す必要がある。今回、限られた空間で効率的かつ円滑に作業するため、新たな係留施設を整備することで、荷揚げ、氷積み作業の円滑化、効率化を図り、流通機能を強化する。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>(1) 防波堤及び岸壁の耐震性確保</p> <p>(2) 係留施設の整備による陸揚げ作業効率の向上</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>					
事業費	事業費		内訳			
	9.5 億円	□工事費	9.5 億円、□用補費	億円、□その他	億円	
事業期間	採択予定年度	平成 30 年度	着工予定年度	平成 30 年度	完成予定年度	平成 36 年度
事業内容	防波堤（改良）：L=222.0m、岸壁（改良）：L=180.0m 浮棧橋（新設）：2 基					
II 評価						
① 事業の 必要性	1) 必要性	<p>(1) 防波堤及び岸壁の耐震性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 師崎地区の-3.0m 泊地にある防波堤及び岸壁は、いずれも施工後 30 年以上が経過しているため、老朽化が進んでおり、ともに L1 津波（発生頻度が高く、津波高は低いが大きな被害をもたらす津波）を発生させる地震に対して安定性を確保していない。当漁港は周辺地域の流通拠点であり、当地区が被災すると愛知県全体の水産業に大きな影響を及ぼすこととなる。そのため、被災後速やかに漁業活動を再開できるよう、施設の耐震対策が求められている。 <p>(2) 係留施設の整備による陸揚げ作業効率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 当漁港は県内最大の利用漁船数を誇っており、今後も流通拠点漁港として外来船利用の増加が見込まれている。しかしながら、入港時には陸揚げをする漁船が集中し、泊地内への出入りの運航が混雑しているため、陸揚げ作業時間の短縮、効率化による流通機能の強化が求められている。 当漁港では、大潮時の干満差が最大 2m 程度（平均で 1.7m）に達しており、これは全国的に見ても非常に大きい。これにより岸壁と漁船の高低差が大きくなるため、船の乗り降りや積荷作業等に多大な労力を要する。 以上のことから、陸揚げ作業の混雑を解消し、かつ潮位による影響を最小限に抑えることが可能な浮棧橋を整備することとする。 				
	判定	A	<p>A：現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。</p> <p>B：現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震による被災後の速やかな漁業活動の再開及び陸揚げ作業の効率化のため、事業実施の必要がある。 			

②事業の効果	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)	【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前評価時 (基準年: H29)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>7.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td>8.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">効果 (億円)</td> <td>水産物の生産性向上</td> <td>9.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>漁業就業環境の向上</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>非常時・緊急時の対処</td> <td>5.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td>15.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考) 年間の出漁日数</td> <td>150回/年</td> <td>パッチ網漁業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>算定要因 陸揚げ待ち発生隻数</td> <td>20隻</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果(B/C)</td> <td>1.8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※四捨五入等により端数が合わないことがある。 ※金額は社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したもの。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】 水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(平成29年4月改訂 水産庁漁港漁場整備部)</p>	区分		事前評価時 (基準年: H29)	備考	費用 (億円)	事業費	7.7		維持管理費	0.8		合計(C)	8.5		効果 (億円)	水産物の生産性向上	9.4		漁業就業環境の向上	0.1		非常時・緊急時の対処	5.6		合計(B)	15.1		(参考) 年間の出漁日数	150回/年	パッチ網漁業		算定要因 陸揚げ待ち発生隻数	20隻		費用対効果分析結果(B/C)		1.8																										
区分		事前評価時 (基準年: H29)	備考																																																														
費用 (億円)	事業費	7.7																																																															
	維持管理費	0.8																																																															
	合計(C)	8.5																																																															
効果 (億円)	水産物の生産性向上	9.4																																																															
	漁業就業環境の向上	0.1																																																															
	非常時・緊急時の対処	5.6																																																															
	合計(B)	15.1																																																															
	(参考) 年間の出漁日数	150回/年	パッチ網漁業																																																														
	算定要因 陸揚げ待ち発生隻数	20隻																																																															
費用対効果分析結果(B/C)		1.8																																																															
2) 貨幣価値化困難な効果	<ul style="list-style-type: none"> 防波堤及び岸壁の整備をすることで地震、津波に対して粘り強い構造となり、背後の集落や施設の被害軽減に繋がることが期待される。 浮棧橋の新設により労働環境が改善され、高齢の漁業者の減少に歯止めをかけることが期待される。 																																																																
判定	<p>A</p> <p>A: 十分な事業効果が期待できる。 B: 十分な事業効果が期待できない。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> B/Cは1.0を超えているため、事業効果の発現が期待できる。 																																																																
③事業の実効性	1) 事業計画	【事業計画】																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> <th>H36</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">工種 区分</td> <td>調査・設計</td> <td colspan="2">←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A防波堤(改良)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>・岸壁(改良)</td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td>←→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・浮棧橋(新設)</td> <td>←→</td> <td></td> <td>←→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費(億円)</td> <td colspan="5">6.62億円</td> <td colspan="3">2.92億円</td> </tr> </tbody> </table>			H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	工種 区分	調査・設計	←→							工事								・A防波堤(改良)						←→	→	・岸壁(改良)			←→			←→	→		・浮棧橋(新設)	←→		←→					事業費(億円)		6.62億円					2.92億円				
			H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36																																																								
	工種 区分	調査・設計	←→																																																														
工事																																																																	
・A防波堤(改良)							←→	→																																																									
・岸壁(改良)				←→			←→	→																																																									
	・浮棧橋(新設)	←→		←→																																																													
事業費(億円)		6.62億円					2.92億円																																																										
2) 地元の合意形成	<ul style="list-style-type: none"> 地元の漁業協同組合より、早期整備の要望を受けている。 事業の検討段階より地元の漁業協同組合と協議し、合意形成を図っている。 																																																																
3) 環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> 本事業は既設の防波堤及び岸壁の改良と浮棧橋の新設であることから、事業規模は比較的小規模であるため、自然環境へ与える影響は小さいが、可能な範囲で環境への配慮に努める。 																																																																
判定	<p>A</p> <p>A: 事業計画の実効性が期待できる。 B: 事業計画の実効性が期待できない。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円滑な事業環境が整っており、計画の実効性が期待できる。 																																																																
法の妥当	1) 代替案の比較検討結果	<ul style="list-style-type: none"> 耐震対策の代替案としては陸揚げを他地区へ移転するというものがあるが、他地区では背後施設が整備されていないため、現実的では無い。 浮棧橋の代替案として、低天端岸壁(一部階段式)、埠頭(重力式)と比較検討した結果、利用面・費用面ともに浮棧橋が最も妥当な事業手法である。 																																																															

判定	A	A：手段に代替性がなく妥当である。又は、手段には代替性があるが当該手段が最も妥当である。 B：手段には代替性があり、改善の余地がある。
	【理由】	<ul style="list-style-type: none"> 耐震対策の代替案は現実的に無理があるため、現地区の防波堤及び岸壁の改良が最も妥当である。 浮棧橋は代替性があるが、利用面・費用面ともに当工法が最も妥当である。
III 対応方針（案）		
事業実施が妥当である。	事業実施が妥当である。：上記①～④の評価ですべてA判定であるもの。 事業実施は妥当でない。：上記以外のもの。	
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 対象（事業完了後5年目） <input type="checkbox"/> 対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 【主な評価内容】 作業時間、陸揚待ち時間、充足率		
V 事業評価監視委員会の意見		
VI 対応方針		

